

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立三和幼稚園

1. 本園の教育目標

「たのしく やさしく げんきよく生きる子どもの育成」

- よく考え工夫し、楽しく活動できる子ども
- まわりの人たちに優しくできる子ども
- 元気よく挨拶のできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

研究主題 ・ 幼児の発達に即した指導計画の作成、保育の展開、指導の過程の評価・改善について
 ・ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について

【視点】 「様々な活動を通して、幼児の主体性を育むための環境構成と援助の工夫」

- いろいろな遊びに親しみ、意欲的に取り組むために環境構成や援助の工夫に努める。
- 基本的な生活習慣及び健康な生活に必要な態度や習慣の形成に努め、元気に挨拶のできる幼児の育成をめざす。
- 様々な人と関わりながら心を通い合わせ、豊かな感性豊を育てる。
- 家庭や地域との連携を深めながら教育の推進に努める。
- 特別な支援の必要な幼児の実態を把握し、心身の発達を図り、自立の基礎となる力を育てる。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 教育活動及び評価	B	<p>教育課程の内容を全職員で推進し、日々の保育の中でその都度、話し合う機会を大切にしてきた。今年度も「様々な活動を通して、幼児の主体性を育むための保育者の援助と環境構成の在り方」を研究主題に掲げ、保育の充実を図る取組を進める中で、幼児理解を深めるとともに、保育内容の検討も行ってきた。幼児教育の重要性、目指す幼児像を明確にして、保護者はもちろん、小学校・地域にも発信していく必要がある。</p> <p>今年度は教育目標を園の廊下に掲示し外からでも保護者の方々のみでいただけるように発信した。</p> <p>園の施設の老朽化、安全に対する心配あり、今後も安心安全な保育現場のため、市教委への要望をしていきたい。</p>
(2) 教育の質と保育力の向上	B	<p>職員が日々園児に愛情を注ぎ、誠実に向き合い、努力してきた結果が反映されると考える。更に一人一人に寄り添った丁寧な関わりや援助が求められる。また、支援が必要な幼児に対する支援方法などの研修も積極的に行い、昨年同様、ICTを保育に取り入れたり、職員研修に活用したりしながら保育に努めていきたい。</p> <p>今後もカリキュラムマネジメントの効果的な実施と、保育者が対話を通じて学び合い、高め合い、支え合う組織づくりを目指して努力していきたい。</p>
(3) 新型コロナウイルス感染対策に配慮した活動の工夫	A	<p>昨年度の経験と実績を活かし、行事や活動の感染対策に工夫をしながら取り組んできた。幼児の育ちに必要な経験に関して、コロナ禍前に実施していた活動や行事は実施することができた。保護者からは行事の再開に対して一定の評価を得ている。</p> <p>今後もコロナ以外の感染症の流行もあり今まで以上の徹底したうがい・手洗いの推奨、換気・消毒など衛生面には注意し保育していきたい。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価・結果

- ・ 幼児を取り巻く環境や状況の変化とともに、保育ニーズの多様化・複雑化により、幼児一人一人に応じた指導は益々困難を極めている。しかし、保育実践を通して一定の成果は得られているが、保育の質と保育者の資質向上が重要な課題である。幼児の実態把握、幼児理解に基づく実践、保育者自身の専門性やスキルの向上が求められる。研修の時間の確保と捻出、その方法の工夫をしながら進めていきたい。
- ・ 様々な感染（コロナ・インフルエンザ・感染性胃腸炎等）対策を講じながらも保育をする中で、医療ケア児に対する看護師の雇用は、医療ケア児以外のすべての幼児にとって、安心して園生活を送ることができる要因であった。次年度も状況を見ながらではあるが、活動内容を工夫して、前向きに取り組んでいきたい。
- ・ 様々な人との温かな触れ合いは、子どもの豊かな心身の育成につながっていくと考える。今年度は、三和小、5年生と動画でメッセージの交換や、オンライン交流会ができた。今後も「子どもの育ち」のために関係機関との連携をとりながら進めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

評価項目	具体的な取組方法
教育の質と保育力の向上	<p>カリキュラムマネジメントと同僚性の相互作用は、保育の質の向上と、保育者の成長と、組織の進化を促し、子どものより良い成長につながると考える。カリキュラムマネジメントを保育者の協働と参画により進めていきたい。また、経験年数の異なる保育者が互いに学び合える効率のよい職員研修の内容の工夫が必要である。個々の職員の教材研究の努力、指導改善の工夫、そして、そのための時間の確保が必要である。職員が自ら学び続けるモチベーションを維持できる環境を整えていきたい。</p> <p>また、感染対策に配慮した活動の工夫については、職員一人一人が安全対策に危機感を持ち、危機管理意識は更に高めていかなければいけない。きちんと説明をしながら保護者の理解を一層得られるように努力していきたい。</p>
就学前教育における学びと義務教育における学びの接続	<p>「自尊感情」「規範意識」「学習意識」の向上のため各年齢の発達に応じた保育を進めていく。幼児期は、楽しいことや好きなことに集中することを通して様々なことを学んでいく、遊びを中心として、頭も心も動かして様々な対象物と直接関わりながら総合的に学んでいく。幼児期で育まれた「学びの芽生え」を児童期の「自覚的な学び」につなげていく。そのためには、小学校との間で、幼児期と児童期の互いの教育内容や指導内容を知り、長期的な見通しをもった子どもの育ちについて知る努力をしていく。接続期の教育の在り方を共有することで目指す資質・能力につながると考える。</p>
働き方改革の推進	<p>本来の保育の準備・環境整備等に加え、保育終了後の消毒作業、感染対策の準備等で、職員の業務量は依然として減少しない。職員の保育技術を磨くための時間の確保や捻出が困難であった。今後も、業務内容の見直しはしていくが、園だけでは解決できないこともあり、職員の配置等、市教委に要望も含め進めていきたい。</p>

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

<p>年間を通して、大きな怪我や事故もなく一人一人が安定した園生活を送ることができていた。行事等、コロナでできなかった行事再開し、子どもたちにとっては良い経験になり楽しい1年になったと保護者の方から高評価であった。</p> <p>まだまだ、様々な感染症が流行し、園では手洗い・うがいの徹底を心掛け、常に園児の安全を第一に考えて保育が進められていた。</p> <p>また、園として、保護者の思いや状況に寄り添い、個々への対応がなされていたことは、子育て中の保護者にとって有難いことであった。</p> <p>評価委員の方からは、発達の時期を考え予想のたてられた保育であった。今後もたのしく・やさしく・元気よくの教育目標を幼児・保護者・教師みんなで実践していけるような園をめざしてほしいと声をかけていただいた。</p> <p>今後も職員の雇用や保育者の育成が課題であるが、どんな状況でも前向きな姿勢で取り組み、より良い方向にすすめていこうとする幼稚園力・困難を乗り越えていこうとする職員力を今後も大事にしていきたい。</p>

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目・評価・取組と達成状況」は、取組の状況や指標や基準等の内容に基づいた成果、評価の根拠を記入する。なお、評価はA・B・C・Dの4段階で記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目・評価・取組と達成状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。